

第 3 回 高 校 生 東 南 ア ジ ア 小 論 文

コ ン テ ス ト

優 秀 賞

北 海 道 札 幌 南 高 等 学 校 2 年

内 田 結 子 さ ん

第3回優秀賞作品 内田 結子さん(インドネシア部門)

2020年東京オリンピック・パラリンピックのエンブレムが「組市松紋」に決まり、開催に向けてこのエンブレムは街の広告やテレビのニュースでよく見かけるようになった。このデザインの軸となったのは、日本で伝統的に愛されてきた市松模様である。

ところで、インドネシアのバリ島の伝統的な織物にも日本の市松模様とよく似ているものがある。名前はポレンといい、課題写真のチャナンを供えた石像の下にも掛けられている、黒と白の布である。インドネシアはムスリムが多いが、バリ島ではバリ・ヒンドゥー教徒が多数を占める。そのバリ・ヒンドゥー教の考えでは、ポレンの黒と白は善と悪、昼と夜など相反するものを表しており、その対極のどちらもが世界になくってはならないものだとして尊重されている。ポレンは、魔除けや浄化の意味合いをもつ「聖なる布」ともいえる布なのである。

インドネシアのポレンに対して、日本の市

第3回優秀賞作品
内田 結子さん(インドネシア部門)

松模様にはどのような意味が込められているのか。市松模様は1741年に歌舞伎役者の佐野川市松がこの模様の衣装を身につけて演技し、それがきっかけとなって世間で大流行した。市松模様という名はこのときについたのである。それ以前には、この柄は石畳という名前と呼ばれており、まるで途切れることなく続いてゆく石畳になぞらえて、古来より繁栄の象徴として日本人に愛されてきた。

インドネシアでは黒と白という色に、日本では石畳のような柄にそれぞれ意味が込められているという違いはあるが、インドネシアと日本の両方がこの柄を昔から大切に伝えてきたことは共通している。

私は、このような異文化の中に共通点を見つけることが大切だと考える。異文化理解は、一般に文化どうしの違いを見つけ、その違いを尊重する態度だと説明されるが、それだけではなく文化どうしの共通点を見つけることも異文化理解の柱なのだ。共通点が見つかる

第3回優秀賞作品
内田 結子さん(インドネシア部門)

と、地理的に遠く離れた知らない文化でもより身近に感じ、人々とより深くコミュニケーションをとることができる。インドネシアの場合、日本と同じアジアに属するため、多くの共通点が見つけられる。例えば、ポレンと市松模様、主食が米であること、日本語とインドネシア語の発音がよく似ていることなどだ。インドネシアへ旅行に行くとき、またはインドネシア人の留学生とコミュニケーションをとろうとするとき、自分からこれらの話題を提示すれば、きっと会話が弾み交流の輪を広げられるに違いない。グローバル化の中で私たちの課題の1つである異文化理解は、このように相手と自分の共通点を見つけることから始めることができるのだ。

第3回優秀賞作品
内田 結子さん(インドネシア部門)

参 考 資 料 :

ホ ー ム ペ ー ジ

① 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

② 東京 2020 エンブレム

③ <https://tokyo2020.org/>

ホ ー ム ペ ー ジ

① 外務省

② 「国・地域」

③ www.mofa.go.jp

書 籍

① 新詳地理資料 COMPLETE2019

② 帝国書院

書 籍

① データブック・地理統計要覧

② 二宮書店

第3回優秀賞作品
内田 結子さん(インドネシア部門)

ホームページ

- ① PANDAN TREE
- ② 織物・民族アート用語集
- ③ www.pandantree.com

ホームページ

- ① 大阪大谷大学
- ② バリ島の伝統芸能にみる文化の継承
- ③ <https://www.osaka-ohtani.ac.jp>

ホームページ

- ① 京屋染物店
- ② 市松模様の意味
- ③ kyo-ya.net

ホームページ

- ① 毎日新聞
- ② にっぽんの美 市松模様 歌舞伎役者が流行させた、伝統の文様
- ③ mainichi.jp

第3回優秀賞作品
内田 結子さん(インドネシア部門)

ホームページ

- ① 文部科学省
- ② 国際化と教育
- ③ www.mext.go.jp

ホームページ

- ① 東洋大学
- ② 異文化の理解
- ③ <http://id.nii.ac.jp/1060/00005009/>

書籍

- ① 新しい社会 公民
- ② 東京書籍